第67回
日本赤十字社
献血チャリティ・コンサート

時代を超えた
傑作たち

2024.1.28 (Sun.)
サントリーホール 大ホール

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 Op.18*
S. Rachmaninoff: Piano Concerto No.2 in c minor, Op.18

休憩 Intermission

ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調「運命」Op.67
L. van Beethoven: Symphony No.5 in c minor, Op.67

川瀬賢太郎
(指揮)
Kentaro KAWASE, Conductor

石井琢磨*
(ピアノ)
Takuma ISHII, Piano

東京都交響楽団
(管弦楽)
Tokyo Metropolitan
Symphony Orchestra

主催：公益財団法人ソニー音楽財団 (Sony Music Foundation)
共催：公益財団法人東京都交響楽団
後援：日本赤十字社、一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)

ご挨拶

本日は「第67回 日本赤十字社 献血チャリティ・コンサート」にようこそお越しくださいました。

このコンサートは、HIV ／ AIDS問題をきっかけに大きく社会問題化された「献血」に対する認識をより一層高めるために、1990年2月よりスタートいたしました。当公演の収益と本日会場にてお寄せいただきました募金は、誰でも、いつでも、安全に、輸血医療を受けられる環境がより整うことを願い、献血運搬車の購入・整備等の血液事業に充当する目的で、日本赤十字社に寄付いたします。

＜2022年度（第66回）までの累計寄付金額：114,405,892円＞

本日ご来場の皆様方、ならびにご共催いただきました東京都交響楽団、ご協力いただきました出演者、そしてご後援いただきました日本赤十字社の皆様に、主催者を代表して心より御礼申し上げます。

公益財団法人ソニー音楽財団
（Sony Music Foundation）
理事長　水野道訓

募金のお願い

コンサートの収益金は日本赤十字社に寄付され、献血運搬車の購入・整備資金に充てられます。
本日、ロビーに募金箱を設置しておりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

2022年度に配備された献血運搬車
（福岡県赤十字血液センター2台）

【新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご理解・ご協力をお願いいたします】

咳等をする際には顔を覆うまたは下を向く等の「咳エチケット」の励行をお願いいたします。
また、ブラボー等の声援の際は、周囲の方へのご配慮をお願いいたします。

曲目解説

柴田克彦（音楽ライター）

本日は、クラシック音楽を代表するロマンティックな協奏曲と迫真的な交響曲が披露される。今回は共に「ハ短調」作品である点がポイント。この調は深刻さや劇的な性格を持っているが、1901年作のラフマニノフの協奏曲と、1808年作のベートーヴェンの交響曲では、その在り方が異なっている。ここは、各々の魅力を満喫すると同時に、約100年を隔てた両曲のテイストの違い（あるいは共通性）にも注目したい。

指揮の川瀬賢太郎は、神奈川フィルを活性化させた後、名古屋フィルで腕を振るう、同世代きっての俊英。生気と躍動感にあふれた表現が持ち味だけに、聴き慣れた名曲をリフレッシュさせるに違いない。ソリストの石井琢磨は、王道の経歴を持ちながらも、動画配信に力を注いでファン層を拡大させている人気ピアニスト。ポピュラー音楽にも編曲されているラフマニノフの協奏曲の清新な表現が期待される。

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第２番 ハ短調 Op.18

近代ロシアの作曲家で大ピアニスト、セルゲイ・ラフマニノフ（1873－1943）が生んだ当ジャンル屈指の人気作。モスクワ音楽院在学中から作品が評価され、前途洋々に思えたラフマニノフだが、1890年代末期になると、複数の要因が重なって作曲不能の事態に陥った。しかし1900年に精神科医ダーリ博士の暗示療法を受けて立ち直り、翌1901年に本作を完成。同年モスクワにて作曲者の独奏で行われた初演も大成功を収めた。ただし最近では、創作スランプ期の彼が指揮等の活動を続けていたことから、博士の治療の高評価に疑問が投げかけられてもいる。

曲は、20世紀初めの作とは思えないほど濃厚なロマンティシズムと、難技巧を伴う近代的なピアニズムが融合した、スケールの大きな作品。甘美な旋律と抒情味に溢れた音楽が、ダイナミックなピアノと重厚なオーケストラによって連綿と展開される。なお、第２楽章の主要主題や第３楽章の第２主題は名旋律として知られ、ポピュラー音楽にも編曲されている。

第１楽章：モデラート。ロシアの鐘を思わせるピアノに続く流麗な第１主題と、センチメンタルな第２主題を軸に、劇的な展開を遂げる。

第２楽章：アダージョ・ソステヌート。抒情的で甘美な遅い楽章。中間部ではテンポを速める。

第３楽章：アレグロ・スケルツァンド。リズミカルな第１主題と優美な第２主題が対比されながら進み、壮大なクライマックスが築かれる。

ベートーヴェン：交響曲 第５番 ハ短調「運命」Op.67

ドイツに生まれたウィーン古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770－1827）の代表作の１つであり、インパクトのある出だしで知られた、クラシック音楽の象徴ともいえる作品。創作中期の1807～08年、対照的な曲調の第６番「田園」と相前後して作曲され、1808年末ウィーンで同時に初演された。なお「運命」の愛称は、「ベートーヴェンが冒頭の４音を『運命はこのようにして扉を叩く』と述べた」という弟子シンドラーが伝える逸話に由来しているが、彼の伝える話は捏造が多く、これも信憑性は低いとされている。

全体的な特徴は、「ハ短調の第１楽章からハ長調の第４楽章へ」、すなわち「闘争から勝利へ」「暗から明へ」の構図。またベートーヴェンは９つの交響曲の１曲ごとに新機軸を打ち出したが、本作には、旋律でなく「ジャジャジャ・ジャーン」の４音＝「運命動機」を軸に据えた稀有の発想、その動機が全楽章に登場する一貫性のある構成、第３楽章の最後を盛り上げたまま第４楽章に入る斬新な手法、交響曲史上初めて使用（第４楽章のみ）されたピッコロ、コントラファゴット、トロンボーンの清新な効果など、独創的な要素が特に多い。

第１楽章：アレグロ・コン・ブリオ。「運命動機」の連続によって緻密に構築されていく、緊迫感に充ちた楽章。

第２楽章：アンダンテ・コン・モート。伸びやかで雄大な長調の遅い楽章。

第３楽章：アレグロ。いわゆるスケルツォの楽章。沸き出るような主題と「運命動機」を中心とした主部に、激しく動く中間部が挟まれる。最後は不気味な音楽が徐々に盛り上がり、頂点で第４楽章へ移る。

第４楽章：アレグロ。輝かしい第１主題で開始。滑るような第２主題をまじえながら、果てしなく高揚していく。

川瀬賢太郎（指揮） Kentaro KAWASE, Conductor

© Yoshinori Kurosawa

1984年東京生まれ。2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻（指揮）を卒業。これまでに指揮を広上淳一などの各氏に師事。2006年10月、東京国際音楽コンクール＜指揮＞において２位（最高位）に入賞。2011年４月には名古屋フィル指揮者に就任、2014年４月より神奈川フィル常任指揮者に就任（2022年３月末まで）。卓越したプログラミングを躍動感あふれる演奏で聴衆に届けている。
オペラにおいても、細川俊夫作曲「班女」、「リアの物語」、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」、ヴェルディ作曲「アイーダ」などを指揮、目覚ましい活躍を遂げている。オーケストラ・アンサンブル金沢パーマネント・コンダクター、札幌交響楽団正指揮者、三重県いなべ市親善大使。2015年渡邉暁雄音楽基金音楽賞、2016年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞などを受賞。東京音楽大学作曲指揮専攻（指揮）特任講師。2023年４月より名古屋フィル第６代音楽監督に就任。

石井琢磨（ピアノ） Takuma ISHII, Piano

東京藝大を経てウィーン国立音大ピアノ科修士課程を満場一致の最優秀で卒業。ポストグラデュアーレコース修了。古き良きクラシック音楽に主軸を置きながら、「クラシックをより身近に」がコンセプト。2016年ジョルジュ・エネスク国際コンクールピアノ部門第２位受賞。これまでにジョルジュ・エネスクフィル、神奈川フィル、関西フィル等と共演。“TAKU-音TVたくおん”名義でYouTubeチャンネルを開設。総再生回数は8300万回を超え、チャンネル登録者数も24万人突破。2ndアルバム「Szene」がオリコン、Amazon等のクラシック部門にて第１位を独占。オリコン総合部門において第３位にランクイン。サントリーホール大ホール公演が発売３分で完売になるなど、今最もチケットが手に入らないピアニストの１人。MBSラジオにてメゾン・ド・ミュージック「たくま式ラジオ」のパーソナリティを務める。ヤマハ「月刊ピアノ」にて「たくおんEssay」連載中。「楽器店大賞2023」ピアニスト部門大賞受賞。第15回とくしま芸術文化賞奨励賞受賞。

東京都交響楽団（管弦楽） Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立（略称：都響）。
現在、大野和士が音楽監督、アラン・ギルバートが首席客演指揮者、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。また、ソロ・コンサートマスターを矢部達哉、コンサートマスターを山本友重が務めている。東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場での定期演奏会を中心に、小中学生への音楽鑑賞教室、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での出張演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での訪問演奏のほか、2018年からは、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる“サラダ音楽祭”を開催するなど、多彩な活動を展開。
「首都東京の音楽大使」たる役割を担い、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。
2021年７月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、《オリンピック讃歌》の演奏（大野和士指揮／録音）を務めた。

公益財団法人ソニー音楽財団（Sony Music Foundation）事業ご案内

ソニー音楽財団は、「子どもたちへの良質な音楽の提供」「誰もが気軽にクラシックを楽しめる環境づくり」「若いアーティストの育成・支援」「子どもへの音楽を通した教育活動に対する助成」の4つの活動を軸とし、上質で魅力あふれるクラシックを通じて、子どもたちの感性豊かな心をはぐくむ事業を35年以上にわたり行っています。

詳細はソニー音楽財団の公式ウェブサイト（www.smf.or.jp）をご覧ください

ソニー音楽財団では、コンサートを含む子ども向けクラシック音楽情報や豆知識を発信する公式SNSや無料モバイルアプリを配信中！

♪SNS「こどものためのクラシック」

♪アプリ「子育てクラシックナビ」